

巻頭言「箱はひとりでに開く」

五十里翔吾 003

日常生活における「箱」のイメージの役割について

野上 貴裕 006

恋人へのジレンマ——デイヴィドソンによる概念枠批判の検討

澤井 優花 022

ブラックボックスと正義の政治——AIと差別

五十里翔吾 029

決して開かれることのない箱としての日常とその秘密

森川 勇大 039

希哲出版嘘表紙シリーズ

黒臺 瞭太 056

クリスチャン・ボルタンスキーと「亡霊」——哲学への架橋のために

武澤 里映 061

『クレヨンしんちゃん』における五歳の超人

澤井 優花 075

初音ミクについて——H・アーレントの政治思想による予備的な分析

新井 悠介 081

哲学的対話を発生させるロボットシステム——社会インフラへ向けた提案

五十里翔吾 090

短歌

連作「炎を負う」

佐原 希生 100

エッセイ

SNSにおけるキャラクターの人格と距離感——シナモンへ向けられた悪意の記録
人形愛のすゝめ

中野由梨花 104
金重 有哉 109

小説

四角い卵
獅子王宣誓

岩本 智孝 113
中谷 拓也 117

戯曲

精神科の先生「うーん。そやねえ」

田所 130

編集後記

希哲会について・会員紹介